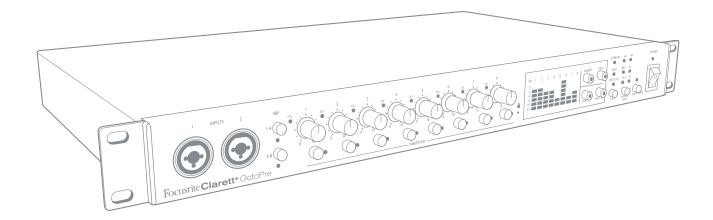
# Clarett\*OctoPre

## ユーザーガイド



Focusrite focusrite.com

## 目次

概要	3
はじめに	3
特徵	3
同梱物	3
各部の名称と特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
フロントパネル	
リアパネル	
使用を開始する	8
Clarett+ OctoPreを登録する	
CLARETT OCTOPREを使用する	9
コンボ入力	
ライン出力	9
デジタル出力	9
デジタル同期	10
Clarett+ OctoPreをクロックマスターとして使用する:	10
Clarett+ OctoPreをクロックのスレーブとして使用する:	10
デジタル入力	10
AIR モード	10
インサート	11
ADAT - Line モード	12
セットアップ例	13
1. オーディオインターフェースとClarett+ OctoPreを使用する:OctoPreがクロックソースのマスターの場合	13
2. オーディオインターフェースとClarett+ OctoPreを使用する:オーディオインターフェースがクロックソースのマスタ	!一の場合13
3. Red 8LineとClarett+ OctoPreを使用する – SMUX-IIおよびSMUX-IVモード	
4. Clarett+ OctoPreとアナログミキシングデスクを使用する	
5. Clarett+ OctoPreをADAT >Line モードで使用する	
6. ドラムレコーディングでClarett+ OctoPreのインサートを使用する	17
CLARETT+ OCTOPRE技術仕様	18
性能仕様	18
物理的特性と電気的特性	19
トラブルシューティング	20
<b>茎作株表示と注定通知</b>	20

### 概要

#### はじめに

Clarett+ OctoPreをご購入いただき誠にありがとうございます。本製品は、スタジオ品質の8つのマイクプリアンプとADAT接続端子を備えており、高度な入出力性能を必要とするエンジニアやプロデューサーのために設計されています。Focusrite独自のアナログモデリング機能Airモードを搭載し、高ヘッドルーム、低ノイズ、低ディストーションを実現した8基の次世代Clarett+マイクプリアンプにより、驚くほどクリアで正確な録音を可能にします。非常に広いダイナミックレンジと独立型のA-DおよびD-Aコンバーターが原音を忠実に再現し、これまで以上に音楽を身近なものにします。

Clarett+ OctoPreに機器を接続するだけで簡単に質の高いマルチレコーディングを行うことができ、ハイレベルな音楽活動が可能になります。Clarett+ 2PreやClarett+ 4Pre、Clarett+ 8PreをADAT接続することで、マルチチャンネルのレコーディングセッションに最適な環境を提供します。

本ユーザーガイドでは、本製品の操作上の機能を十分理解していただくために、本体について詳しく説明しています。Clarett+ OctoPreが持つすべての機能を理解するため、本ガイドを最後までよくお読みいただくことを推奨します。

#### 特徴

Clarett+ OctoPreは、マイクやライン、楽器入力が可能な8チャンネルプリアンプです。アナログ出力の他にデジタル出力も備え、光ケーブルをオプティカルTOSLINKコネクタに接続することで、ADATフォーマットによるデジタル出力に対応します。これにより、ADAT対応のあらゆるインターフェースに簡単に接続できます。44.1/48/88.2/96 kHzのサンプルレートで8チャンネル、または176.4/192 kHzのサンプルレートで4チャンネルのオーディオ信号を送受信することができます。

Clarett+ OctoPreは、次世代の高性能Clarett+プリアンプを8基備えています。十分に余裕のあるヘッドルーム、低ディストーション、低ノイズのプリアンプは、クリアでパワフルなサウンドをキャプチャーします。

さらに進化した高性能なA-DおよびD-Aコンバーターにより、超低ノイズかつ高ダイナミックレンジのパフォーマンスが実現し、さらにパワフルなレコーディングが可能になります。Clarett+OctoPreは、切り替え可能なインサート機能を各チャンネルに搭載しており、音楽制作ツールの中核として活躍します。またワードクロック入力により、システムの利便性と信頼性を高めます。

ADAT入力には、Clarett+ 8Preなどの外部インターフェースをADAT接続でき、レコーディングシステムの出力チャンネルを拡張できます。

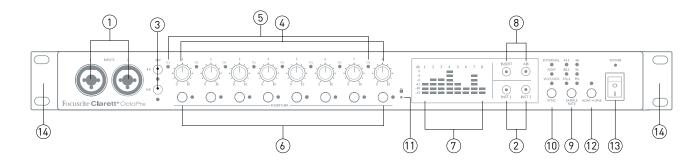
#### 同枫物

Clarett+ OctoPreには以下の付属品が含まれています:

・IEC コネクタ付属 AC 電源ケーブル

#### 各部の名称と特徴

#### フロントパネル

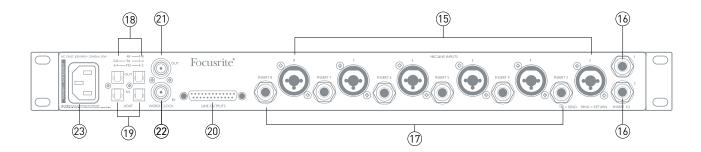


- 1. INPUT 1 & 2 コンボ XLR 入力ソケット 必要に応じて XLR または1/4インチジャックでマイク、楽器 (ギターなど) またはラインレベル信号を接続します。楽器またはラインレベル信号には、TRS (バランス) または TS (アンバランス) ジャックプラグのどちらか一方を使用することができます。
- 2. INST 1 & INST 2 INPUT 1および INPUT 2を楽器モードに切り替える2つのスイッチ。INSTを有効にすると、ゲインレンジと入力インピーダンスが (LINEに対して)変更され、入力がアンバランス接続に切り替わります。これにより、2極 (TS) ジャックプラグで楽器を直接接続できるように入力部が最適化されます。INSTを無効にすると、入力がラインレベル信号に最適化されます。ラインレベル信号は、3極 (TRS) ジャックを用いたバランス入力、または2極 (TS) ジャックを用いたアンバランス接続が可能です。各スイッチには赤色のLEDが搭載しており、選択状態を確認できます。
- 3. 48V マイク入力1~4および5~8のコンボコネクタにあるXLR接続部で、48Vファンタム電源を 個別に有効にするスイッチ(入力3~8はリアパネル)。ファンタム電源がオンのとき、各スイッチ の横にあるLEDが赤色に点灯します。ファンタム電源は、すべてのマイクに必須ではありません。 お使いのマイクにファンタム電源が必要か不明な場合は、マイクの取扱説明書を必ずご確認く ださい。
- 4. ゲイン**1~8** 8つのロータリーコントロール:Input 1から8に適用される信号の入力ゲインを調整します。
- **5. O/L** 各入力チャンネルにはオーバーロードを示す赤色のLEDが備わり、信号レベルが+19.5 dBuに達すると点灯します。LEDが点灯しないよう常に信号レベルを調節することで、クリッピングを防ぐことができます。
- **6. INSERT/AIR** INSERTおよびAIRメインスイッチ [8] の設定に応じて、リアパネルの各インサート またはAIR機能のいずれかを有効にするスイッチ。各スイッチにはLEDが備わり、INSERTが選択 されている場合は緑色に、AIRが選択されている場合は黄色に点灯します。
- 7. メーター 6段階のLEDメーターで、8つのアナログ入力信号レベル (メーター 1~8)、または MONITOR 1およびMONITOR 2の出力信号レベル (メーターLおよびR) を表示します。入力メーターは入力ゲインステージ後の信号レベルを示します。出力メーターはモニターレベルコントロール [10] 前の信号レベルを示すため、メーター表示は実際のモニターレベルを示すものではありません。LEDは、-42 dBFS (緑色、信号あり)、-18および-12 dBFS (緑色)、-6および-3 dBFS (黄色)、0 dBFS (赤色) に応じて点灯します。0 dBFSレベルを超えるとデジタルクリッピングが生じるため、十分な注意が必要です。
- **8. INSERT** および **AIR** 機能メインスイッチ:LED内蔵の2つのソフトスイッチ (INSERT=緑色、AIR=黄色)で、チャンネルごとの INSERT/AIR スイッチの機能を決定します [6]

4

- 9. SAMPLE RATE 6つのサンプルレート設定の選択を行うスイッチ。上部にある緑色LEDの点灯によって現在のサンプルレートを確認できます。サンプルレート設定は本体に保存されるため、本体の電源を切っても、次回の電源投入時に同じサンプルレートが選択されます。
- **10. SYNC** 3つのデジタル同期ソース (INTERNAL、ADAT、W/CLOCK) から選択を行うスイッチ。上部にある赤色LEDの点灯によって現在のデジタル同期ソースを確認できます。ソース設定は本体に保存されるため、本体の電源を切っても、次回の電源投入時に同じソースが選択されます。
- **11.** ♠(ロック) Clarett+ OctoPreの内部クロックまたは外部デジタル入力信号でクロック同期が確立されると点灯する緑色のLED。
- 12. ADAT > LINE このスイッチを無効にすると、入力チャンネル1~8の信号がリアパネルのLINE OUTPUTコネクタ(アナログ)とADATポート(デジタル)の両方に供給されます。ADAT > LINEスイッチを有効にすると、ADAT入力ポートからの信号が、Clarett+ OctoPreのLINE OUTPUTコネクタに供給され、8チャンネルのアナログ出力をシステムに追加できます。このモードが有効の場合、赤色LEDが点灯します。またアナログ入力(チャンネル1~8)は引き続きADATデジタル出力に供給されます。モード切替の設定は本体に保存されるため、本体の電源を切っても、次回の電源投入時に同じ状態で起動します。
- 13. POWER AC 電源スイッチおよびオンを示す LED。
- 14. 標準の19インチラックにClarett+ OctoPreをマウントするためのラックイヤー。

#### リアパネル



- **15. MIC/LINE INPUT 3~8** コンボ XLR 入力ソケット 必要に応じて XLR または1/4インチジャック で追加のマイクまたはラインレベル信号を接続します。ラインレベル信号には1/4インチ TRS(バランス)または TS(アンバランス)ジャックプラグを使用できます。
- **16. INSERTS 1** & **2** 外部プロセッサーをチャンネル1およびチャンネル2に接続する2つの1/4インチTRSジャックソケット。フロントパネルの**INSERT/AIR**スイッチ [6] または [8] で、インサート(アンバランス)を有効にします。ソケットの配線は以下の通りです。

ジャック接触部	機能
チップ	センド(出力)
リング	リターン(入力)
スリーブ	グラウンド

注意:フロントパネルの **0/L** LED [5]を用いて、インサートによる外部機器への出力信号レベルをモニターできます。

- **17. INSERTS 3~8** 6つの¼インチ TRS ジャックソケットを使用して、チャンネル3~8にインサートを行います。電気的特性は [16] と同一です。
- **18. OPTICAL OUT** デジタル出力を行う2つのTOSLINKコネクタ。それぞれのサンプルレートにおける各ポートの出力チャンネルは、以下の通りです:

サンプルレート	OUTPUT 1 (右側ポート)	OUTPUT 2 (左側ポート)
44.1/48kHz	チャンネル1~8	チャンネル1~8
88.2/96kHz	チャンネル1~4	チャンネル5~8
176.4/192kHz	チャンネル1、2	チャンネル3、4

**19. OPTICAL IN** – ADAT > LINE モードを有効にすることで、Clarett+ OctoPreへのデジタル入力を可能にする2つのTOSLINKコネクタ。これらの信号は、チャンネル1~8へのデジタル入力ではありません。ポートに入力された信号はAIR回路が適用されず、インサート機能も使用することができません。この2つのコネクタは、[18]と同様、サンプルレートに応じてチャンネル構成が変化します。

20. LINE OUTPUTS 1~8 - 25ピンD-Subコネクタ(メス)による8つのバランスアナログライン出力。このコネクタは常に有効です。通常はチャンネル1~8の信号が出力されるため、Clarett+OctoPreをスタンドアローンの高品質8チャンネルアナログマイクプリとして使用できます。ADAT > LINEモードを有効にすると、OPTICAL INポート [19] への入力信号が伝送されます。コネクタのピン配列は、一般的な「TASCAM」標準の8チャンネルアナログインターフェース規格に準拠します。

ピン	機能	ピン	機能
1	出力8「ホット」(+)	14	出力8「コールド」(-)
2	出力8 GND	15	出力7「ホット」(+)
3	出力7「コールド」(-)	16	出力7 GND
4	出力6「ホット」(+)	17	出力6「コールド」(-)
5	出力6 GND	18	出力5「ホット」(+)
6	出力5「コールド」(-)	19	出力5 GND
7	出力4「ホット」(+)	20	出力4「コールド」(-)
8	出力4 GND	21	出力3「ホット」(+)
9	出力3「コールド」(-)	22	出力3 GND
10	出力2「ホット」(+)	23	出力2「コールド」(-)
11	出力2 GND	24	出力1「ホット」(+)
12	出力1「コールド」(-)	25	出力1 GND
13	n/c		

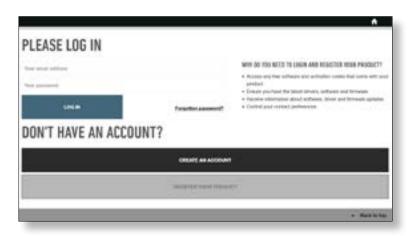
- **21. WORD CLOCK OUTPUT** Clarett+ OctoPreからワードクロック信号を出力するためのBNCコネクタ。他のデジタルオーディオ機器を同期させる際に使用します。
- **22. WORD CLOCK IN** 外部ワードクロック信号を接続するためのBNCコネクタ。フロントパネルの **SYNC**をW/CLOCK設定にして使用します。スタジオ内のすべてのデジタルオーディオ機器を同期させるマスタークロックがある場合に使用する入力コネクタです。
- **23**. AC 電源 IEC規格コンセント。Clarett+ OctoPreはユニバーサル電源を採用しており、100Vから 240V (50Hzまたは60Hz) のあらゆるAC電源の電圧に対応しています。

### 使用を開始する

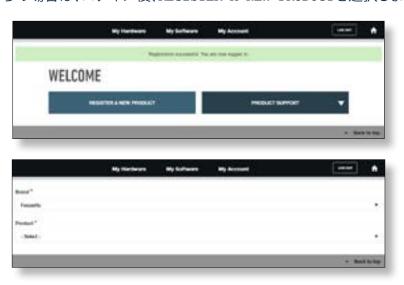
#### CLARETT+ OCTOPREを登録する

以下の手順で不明な点がある場合は、こちらの動画ガイドをご覧ください。 focusrite.com/get-started/ClarettPlus-OctoPre

1. focusrite.com/register/にアクセスします。



- 2. Focusrite/Novationアカウントをお持ちでない場合は、CREATE AN ACCOUNTを選択し、画面の指示に 従ってアカウントを作成します。
- 3.アカウントをお持ちの場合は、ログイン後、REGISTER A NEW PRODUCTを選択します。



- 4. 購入したClarett+製品を「Product」ドロップダウンリストから選択し、ページ下部に製品のシリアル番号を入力します。シリアル番号は、Clarett+ OctoPre本体の裏面に記載されています。入力後、set Serial Numberをクリックします。
- 5. 画面の指示に従って製品の登録を完了してください。
- 6. 登録が完了すると、アカウント内のMy Hardwareタブに製品が表示されます。
- 7. 付属のソフトウェアは、My Softwareタブで確認できます。

### CLARETT OCTOPREを使用する

#### コンボ入力

8つのすべてのアナログ入力は、コンボXLRコネクタを備えています。XLRコネクタ(オス)、TS(アンバランス)1/4インチジャック、またはTRS(バランス)1/4インチジャックを使用できます。

XLRコネクタを接続すると、プリアンプはゲインとインピーダンスが自動的に設定され、マイクレベル信号を入力できるようになります。1/4インチプラグを接続すると、プリアンプはバランスまたはアンバランスのラインレベル信号を入力できるように設定されます。INSTモード(チャンネル1または2)を有効にすると、1/4インチ入力はアンバランス高インピーダンス信号に最適化されます。

#### ライン出力

Clarett+ OctoPreのライン出力をアウトボード機器のアナログライン入力に接続することで、Clarett+OctoPreをアナログ8チャンネルマイクプリアンプとして使用できます。またADAT > LINEモードを有効にすると、ADAT信号のアナログ「ブレイクアウトボックス」として使用できます。

出力はバランス接続です。ピン配列は7ページの [20] をご参照ください。DB25-XLRまたはDB25-フォーンジャックのブレイクアウトケーブルは、プロオーディオ機器販売店にてお求めいただけます。

#### デジタル出力

TOSLINK オプティカルケーブルを使用してClarett+ OctoPreをオーディオ機器のADAT入力に接続する場合は、OPTICAL OUT (ADATポート [18]) を使用してください。

このとき、1本のオプティカルケーブルを介して、44.1kHzまたは48kHzのサンプルレートで8チャンネルのオーディオ信号を送信できます。これらのサンプルレートでは、2つのポートが同一の8チャンネルを伝送します。

88.2kHzまたは96kHzのサンプルレートでは、各ポートが4チャンネルを伝送します。右側のポートはチャンネル1~4、左側のポートはチャンネル5~8を伝送するため、8チャンネルすべての信号を伝送するには、2本のTOSLINKケーブルが必要となります。

176.4kHzまたは192kHzのサンプルレートでは、各ポートが2チャンネルを伝送します。右側のポートはチャンネル1および2を、左側のポートはチャンネル3および4を伝送します。これらのサンプルレートを使用した場合、Clarett+ OctoPreが使えるデジタルオーディオチャンネルは4つに制限され、チャンネル5~8はADATポートから出力されません。

**SAMPLE RATE** スイッチ [9] を使用して、サンプルレート周波数を選択します。Clarett+ OctoPreで設定したサンプルレートと受信デジタルデバイスのサンプルレートは一致しなければなりません。

#### デジタル同期

同期は次の2つの方法で行えます:

#### CLARETT+ OCTOPREをクロックマスターとして使用する:

Clarett+ OctoPreの**OPTICAL OUT**ポートを受信側のデジタル機器と接続し、その機器がADAT入力からクロックを受信するように設定されている(また、両方の機器のサンプルレートが一致している)ことを確認します。

OctoPreで、**SYNC**を**INTERNAL**に設定してください。**△**LEDが点灯します。

または、BNCケーブルを使用して受信側の機器をClarett+ OctoPreのWORD CLOCK OUTに同期させることも可能です。この場合は、受信側の機器の同期ソースを外部ワードクロック入力に設定する必要があります。

#### CLARETT+ OCTOPREをクロックのスレーブとして使用する:

OctoPreの**OPTICAL OUT**ポートとインターフェースを接続し、デジタルシステムのマスターワードクロックからのBNCケーブルを、OctoPreの**WORD CLOCK IN**に接続します(同時に、すべてのデバイスのサンプルレートが一致していることを確認します)。

OctoPreで、**SYNC**をW/CLOCKに設定してください。**△**LEDが点灯します。

#### デジタル入力

デジタルオーディオ信号 (DAWからの出力など) をアナログ変換したい場合は、ADAT > LINEモードを有効にし、OPTICAL IN ADATポート [19]を使用します。

右側のポートは、44.1kHzまたは48kHzのサンプルレートで、1本のオプティカルケーブルを介して8つのオーディオチャンネルを受信できます。

88.2kHzまたは96kHzのサンプルレートでは、各ポートが4チャンネルのオーディオ信号を受信できます。右側のポートはチャンネル1~4、左側のポートはチャンネル5~8を伝送するため、8チャンネルすべての信号を受信するには、2本のTOSLINKケーブルが必要となります。

176.4kHzまたは192kHzのサンプルレートでは、各ポートが2つのオーディオチャンネルを受信できます。右側のポートはチャンネル1および2を、左側のポートはチャンネル3および4を伝送します。これらのサンプルレートを使用した場合、OctoPreでは4つのデジタルオーディオチャンネルのみを使用することができます。

SAMPLE RATE スイッチ [9]を使用して、周波数を選択します。このときClarett+ OctoPreのサンプルレートは、伝送側のデジタル機器のサンプルレートと一致しなければなりません。

#### AIR モード

OctoPreに搭載されるアナログプリアンプ回路は、Clarett+シリーズの大きな特徴の1つです。この回路には、チャンネルごとに個別に切り替え可能なAIR機能が組み込まれています。AIRは、プリアンプの周波数特性をわずかに変更することで、トランスを搭載するFocusriteの伝統的なISAマイクプリアンプのインピーダンスとレゾナンスを再現します。またマイクで録音を行った場合、ボーカルや生楽器にとって最も重要な中音域の明瞭さと鮮明度が向上します。

#### インサート

プリアンプの各チャンネルには、コンプレッサーやノイズゲートなどの外部プロセッサーを接続するための切り替え可能なインサートポイントを備えています。インサートは、センドとリターンの回路で構成されています。INSERTソケットにプラグが接続されていない限り、インサートチャンネルの信号経路は遮断されません。インサート回路のセンドおよびリターンはいずれもアンバランスです。TRSジャックのチップ(センド)とリング(リターン)が2つに分岐したケーブルを使用します。このケーブル(通称「Yケーブル」)は、プロオーディオ機器販売店にて購入できます。

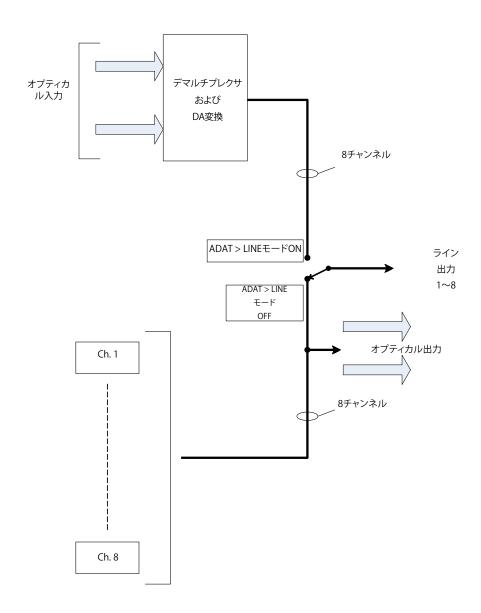
インサートポイントは、AIR回路の後(外部機器はAIR処理後の信号を受信)に設定、またフロントパネルGAINコントロール[4]の後に設定されます。インサートポイントを使用する場合、リターン信号がセンド信号と同じレベルになるよう、外部プロセッサーの入力および出力レベルを調節してください。外部プロセッサーのゲインが大きすぎると、Clarett+ OctoPre内部に過負荷がかかってしまう恐れがあるため、チャンネルメーター[7]でリターン信号のレベルを確認してください。



インサートポイントを有効にするには、フロントパネルのINSERT/AIRボタン [6] を有効にします(まずマスタースイッチ [8]でINSERTを選択します)。チャンネルのLEDが緑色に点灯し、選択を確認することができます。

#### ADAT - LINE T-F

ADAT > LINE モード(フロントパネルの [12])を選択すると、アナログ **LINE OUTPUTS**のD-Subコネクタ [20] のソースが8系統のADAT入力信号に割り当てられます。通常の動作では、このD-Subコネクタからマイクプリアンプチャンネルの信号が出力されますが、ADAT > LINEモードを有効にすると、D/A変換後に**OPTICAL IN**ポートに入力されたADATデジタル信号がD-Subコネクタに伝送されます。

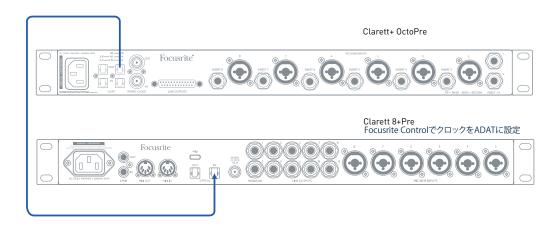


このモードでは、Clarett+ OctoPreに入力された8チャンネルのADAT信号 (DAWの出力など)を外部アナログ機器に接続できます。たとえば、DAWの各チャンネルをアウトボード機器に接続し、ミックス作業で使用することができます。

ADAT > LINEモードを有効にしているときでも、Clarett+ OctoPreの8つのマイクプリアンプは引き続き使用でき、プリアンプ出力は**OPTICAL OUT**ポートから出力されます。

### セットアップ例

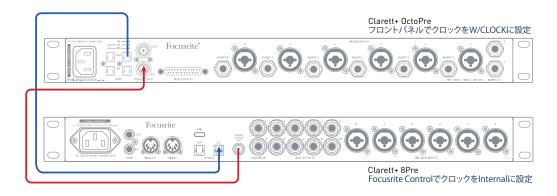
## 1. オーディオインターフェースとCLARETT+ OCTOPREを使用する: OCTOPREがクロックソースのマスターの場合



上図では、Clarett+ OctoPreの**OPTICAL OUT**とClarett+ 8Preオーディオインターフェースの**OPTICAL IN**が1本のオプティカルケーブルで接続されており、いずれの機器も44.1 kHzのサンプルレートで動作しています。OctoPreのクロックソースはINTERNALに、Clarett+ 8PreのクロックソースはADATに設定され(Focusrite Control使用)、同期が確立されています。

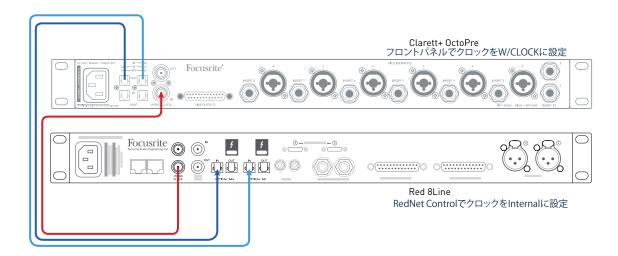
これにより最大16チャンネルのマイクまたはラインソースをDAWに同時録音することもでき、ライブバンドのレコーディングに最適なセットアップとなります。

## 2. オーディオインターフェースとCLARETT+ OCTOPREを使用する:オーディオインターフェースがクロックソースのマスターの場合



このセットアップでは、Clarett+ OctoPreの**OPTICAL OUT**とFocusrite Clarett+ 8Preオーディオインターフェースの**OPTICAL IN**が1本のオプティカルケーブルで接続されており、いずれの機器も44.1 kHzのサンプルレートで動作しています。Clarett+ OctoPreのクロックソースはW/CLOCKに設定されており、OctoPreの**WORD CLOCK IN**とClarett+ 8Preの**WORD CLOCK OUT**がBNCケーブルで接続されています。Clarett+ 8PreのクロックソースはINTERNALに設定されているため(Focusrite Control使用)、同期マスターとして動作します。このセットアップは、ADAT入力とワードクロック出力を備えたその他のオーディオインターフェースでも利用できます。

#### 3. RED 8LINEとCLARETT+ OCTOPREを使用する – SMUX-IIおよびSMUX-IVモード

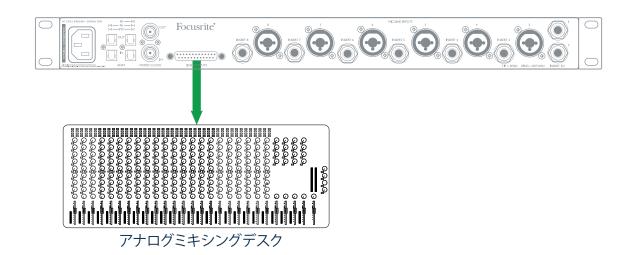


このセットアップは例2と同様の構成ですが、Focusrite Red 8Lineオーディオインターフェースを96kHz のサンプルレート(SMUX-IIモード)で使用しています。両方の機器を96kHzに設定し、2本のオプティカルケーブルを使用してそれぞれ4チャンネルを伝送します。Red 8Lineが同期マスターとなります。

このセットアップは192kHzのサンプルレート(「SMUX-IV」モード)でも適用できます。その場合、各オプティカルケーブルが2つのオーディオチャンネルを伝送します。

また、このセットアップは、2つの ADAT 入力とワードクロック出力を備え96/192kHzでの使用が可能なその他のオーディオインターフェースにも適しています。

#### 4. CLARETT+ OCTOPREとアナログミキシングデスクを使用する

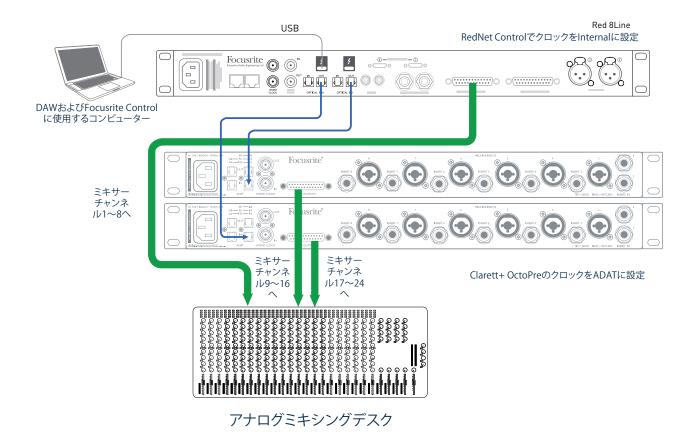


このセットアップでは、Clarett+ OctoPreのマイクプリアンプとAIRモードを、アナログミキシングデスクの高品質な「フロントエンド」として使用できます。OctoPreのLINE OUTソケットをミキシングデスクの8つのライン入力に接続するために、スネークケーブルを使用します。スネークケーブルは、一方に25ピンのD-Subコネクタが、もう一方にミキシングデスクのライン入力に適した8つのコネクタが備わっているものを用意します(スネークケーブルは、プロオーディオ機器販売店にてお求めいただけます)。

このセットアップは、OctoPre をあらゆるタイプの8チャンネルアナログ機器の入力ステージとして使用する際にも適しています。

Clarett+ OctoPreの**ADAT OUT**ポートは常に有効であるため、ADATインターフェースを使用して、演奏をDAW (または他のレコーディング機器) に同時に録音できます。

#### 5. CLARETT+ OCTOPREをADAT >LINE モードで使用する



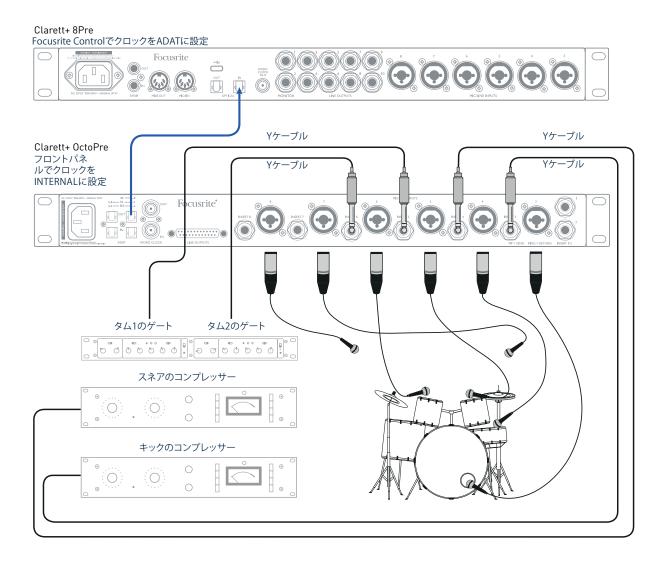
上図は、ミックスダウンの際に複数のDAWトラックをアナログミキシングデスクに接続する場合のセットアップです。Red 8Lineインターフェースの8つのアナログ出力がアナログミキサーのチャンネル1~8に接続され、Red 8Lineの**OPTICAL OUT**ポートは、いずれもADAT > LINE モード設定になっている2台のClarett+ OctoPreのOPTICAL INポートに接続されています。例4で使用しているスネークケーブルを用いて、2台のOctoPreをアナログミキサーのチャンネル9~24に接続します。

この場合、通常Red 8Lineは同期マスターとして動作するため、クロックソースはInternalに設定されています。2台のClarett+ OctoPreのクロックソースは、いずれもADATに設定されているため、ADATオプティカル接続経由でRed 8Lineに同期します。

このセットアップで1台のClarett+ OctoPreを使う場合は、16のDAWチャンネルをアナログミキサーに接続できます。

上記のチャンネル数は、Focusrite Red 8Lineをメインのインターフェースとし、サンプルレート44.1/48 kHzの場合に有効です。

#### 6. ドラムレコーディングでCLARETT+ OCTOPREのインサートを使用する



アコースティックドラムのレコーディングでは、様々な方法でダイナミクスをコントロールして欲しいサウンドを得ることができます。キックとスネアを太くするときにコンプレッサーがかけられ、タムのドラムマイクの音漏れを最小限に抑えるためにノイズゲートが用いられます。

アウトボードプロセッサーに合わせて、一方にTRSジャック、もう一方に2つのXLR、TRS(またはTR)ジャックを備えたスネークケーブルを使用します。OctoPre側のTRSジャックの「リング」はプロセッサーの入力に、「チップ」は出力に接続します。

## CLARETT+ OCTOPRE技術仕様

## 性能仕様

サンプルレート			
対応サンプルレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz		
マイク入力			
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.03 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB		
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)		
THD+N	-110 dB @ -1 dBFSおよび20 dBゲイン		
ノイズ EIN	-129 dBu		
最大入力レベル	18 dBu		
ゲインレンジ	57 dB		
ライン入力			
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.05 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB		
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)		
THD+N	-100 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン		
最大入力レベル	26 dBu		
ゲインレンジ	57 dB		
楽器入力	楽器入力		
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.04 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB		
ダイナミックレンジ(インサート末 使用)	116 dB		
THD+N	-96.5 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン		
最大入力レベル	15 dBu		
ゲインレンジ	57 dB		
ラインおよびモニター出力			
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.02 dB; 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.02 dB		
ダイナミックレンジ	124 dB		
THD+N	-106 dB		
最大出力レベル (OdBFS)	18 dBu		

## 物理的特性と電気的特性

アナログ入力1 & 2			
コネクタ	フロントパネルのコンボ XLR ソケット。ラインには1/4 インチ TRS ジャック、Inst には1/4 インチ TS ジャックを使用します。		
マイク/ライン切替	自動		
ライン/楽器切替	フロントパネルの2つのスイッチ経由		
ファンタム電源	+48 V、グループごとに (1-4、5-8) チャンネル切替可能		
アナログ入力3~8			
コネクタ	リアパネルのコンボ XLR ソケット。ラインには1/4 インチ TRS ジャックを使用します。		
マイク/ライン切替	自動		
ファンタム電源	+48 V、グループごとに (1-4、5-8) チャンネル切替可能		
出力			
アナログ出力	8 x リアパネルの25ピンDサブコネクタ(メス、バランス)		
その他の入出力	その他の入出力		
ADAT 入出力	4 x TOSLINK オプティカルコネクタ: 44.1/48kHzの場合8チャンネル(両ポート) 88.2/96kHzの場合8チャンネル(チャンネル1-4、5-8) 176.2/192kHzの場合4チャンネル(チャンネル1&2、3&4)		
ワードクロック出力	2.5V (正しく終端)、BNC コネクタ		
ワードクロック入力	BNC コネクタ		
重量および寸法			
幅x奥行x高さ	482mm (1U) x 44.5mm x 286mm 19インチ (1U) x 1.75インチ x 11.3インチ		
重量	4.15kg		

## トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusriteへルプセンター $\underline{\text{support.focusrite.com}}$ にアクセスしてください。

## 著作権表示と法定通知

Focusrite、Clarett、OctoPreは、米国およびその他の国におけるFocusrite Audio Engineering Ltd.の登録商標です。

ADATは、米国および他の国におけるinMusic Brandsの登録商標です。

TASCAMデジタルインターフェースは、TEAC Corporationによって開発された独自規格です。

2021 © Focusrite Audio Engineering Limited.無断転載禁止。